

藤前干潟クリーン大作戦 第1回～第31回までの記録

		参加者	集約ゴミ袋	一人当たり集約数	参加自治会	干潟観察会	水質調査	アンケート	特 徴
2004.10.24	第1回 04秋	240	830	3.46	3				アテネ五輪メダリスト三名が参加・以降第5回まで参加。松原名古屋市長が参加。事後の実行委員会で春秋2回実施を確認
2005.05.08	第2回 05春	430	1,400	3.26	7				多治見から市民団体が初参加
2005.11.13	第3回 05秋	612	2,032	3.32	8				野井の大作戦メンバー、笠原中学生が参加。野井のクリーン大作戦に参加、笠中の里山整備に参加
2006.5.29 /28	第4回 06春	—	—	—	—				予備日も含めて2日雨天のため中止
2006.11.05	第5回 06秋	628	1,784	2.84	8				モリゾーキッコロが初参加
2007.05.19	第6回 07春	748	1,314	1.76	8	△			春の大作戦に先立ち4.15ゴミシンポを開催。生物調査会を実施。中堤会場で防災鍋実施・以降毎回愛知防災リーダー会との協力で実施
2007.11.17	第7回 07秋	614	1,284	2.09	8				
2008.05.17	第8回 08春	750	800	1.07	8				
2008.11.16	第9回 08秋	271	—	—	—				直前の雨で中止、支障ない一部学区で実施
2009.05.23	第10回 09春	939	1,018	1.08	8				参加者が900人を超える。
2009.10.31	第11回 09秋	1,190	1,791	1.51	8	37	○		初めて参加者が1,000人を超える。モリコロの外にうながっぱ、ヤマリン、ミーツン・ホーツンも参加。流域5地点(4地点)の水質調査を開始、大作戦後干潟観察会を実施
2010.05.29	第12回 10春	1,632	1,800	1.10	9	80	○	○	ペットボトルゴミを減らすためのアンケート実施(以降3回実施)
2010.10.23	第13回 10秋	1,474	2,080	1.41	9	51	○	○	ペットボトルゴミを減らすためのアンケート実施
2011.05.14	第14回 11春	1,483	1,879	1.27	9	44	○	○	マイクロバスで1.0kmまで参加者をピストン輸送。ペットボトルゴミを減らすためのアンケート実施。デポジット制度導入が最大。
2011.11.12	第15回 11秋	1,589	2,293	1.44	9	40	○		マイクロバスで1.0kmまで参加者をピストン輸送。台風12号15号の影響で過去最大のゴミ集約。ペットボトルゴミのアンケート結果を報告。
2012.05.19	第16回 12春	1,821	2,034	1.12	9	57	○		過去最高の参加者。ゴミの集約数は過去3番目。しかし、春としては過去最高を集約。名古屋環境大学が講座を開設。
2012.10.27	第17回 12秋	1,876	1,802	0.96	9	45	○		過去最高の参加者数を更新。ゴミの集約数は過去5番目。
2013.05.25	第18回 13春	1,704	1,224	0.72	9	117	○		第3位の参加者数、ゴミ集約は少ない方から4番目。干潟観察会は初の100人超え。初の枇杷島の名城大学付属高校前会場で85人参加。
2013.11.16	第19回 13秋	1,737	1,573	0.91	9	45	○		第3位の参加者数、ゴミ集約は秋の取組としては過去10回中3番目に少ない集約数。春の状況も含めて希望的観測として、漂着ゴミが減っているのか？。
2014.05.17	第20回 14春	1,755	1,523	0.87	9	100	○		10周年記念第20回春の藤前干潟クリーン大作戦として開催。20回で延べ参加者が2万人を超える！
2014.10.25	第21回 14秋	1,928	1,681	0.87	9	103	○		過去最高の参加者。ごみの集約数が、第1回以降の合計で3万袋を越えた。
2015.5.16	第22回 15春	30	—	—	—	—	○		雨のため7年ぶりに中止。スタッフが片付けと水質調査、交流会を行った。
2015.10.24	第23回 15秋	2,424	2,154	0.89	9	120	○		2,424人と過去最高の参加者となり通算参加者数は2万5千人を超えました。収集したゴミ袋は第15回(11秋の2293袋)に次いで2番目の収集となり、通算収集数が30,142袋となり3万を超えました。干潟観察会の参加者は、120人となり過去最高レベルの参加者となった。
2016.05.21	第24回 16春	1,735	1,761	1.01	8	104	○		1,735人と春としては3番目の参加者となりました。収集したごみの量は春として4番目の量となっています。24日の参加延べ数は27,610人となり、収集したごみの量は45Lゴミ武来で3万4千袋を超え、34,057袋となった。干潟観察会参加者(スタッフ含み)は、5回目の100人越えとなった。
2016.10.29	第25回 16秋	2,305	2,081	0.90	9	125	○		昨年秋の2,423人に次いで、2回目の2000人越えの2,305人の参加者となり累計参加者は29,915人と3万人に迫っています。集約したごみの量は、45Lゴミ武来に2,081袋と秋の取組として、3番目の集約量となった。干潟観察会の参加者は、125人と過去最高の参加者となり、5回連続で100人越えとなった。
2017.5.24	第26回 17春	1,724	1,480	0.86	9	79	○		参加者数は、2014年秋以来の1600名台の参加者となりました。又ごみ収集数は1480と2013年春の1224袋以来の少ない数となった。一人当たりの収集数は0.87と1以下となった。
2017.10.21	第27回 17秋	65	—	—	—	—	○		台風21号による雨のため3年ぶり4回目の中止。中部大生24人含むスタッフが三郷の川をきれいにする会の皆さん27人と「上下流交流会」を行った。水質調査は、流域4地点の調査を交流会メンバーで行った。
2018.5.26	第28回 18春	1,661	1,704	1.03	8	82	○	ヨシ植栽に23名	前年秋の雨中止のためか、一人当たりの集約数は久しぶりに1袋を超えました。今回初めてヨシ植栽実験を23名の参加で行いました。
2018.10.27	第29回 18秋	1,321	3,231	2.45	6	130	○	ヨシ見守る会29名	心配された雨も朝方に上がり、好天の下、10会場で事故なく無事に終えることができました。参加者数は雨予報の影響したのか、1,211人ととどまりましたが、集約数は過去最高の2772袋となり、一人当たりの集約数は、2.39袋と、第5回の取組以来の高集約数になりました。干潟観察会、ヨシ植栽を見守る会にも多くの参加がありました。12月15日秋2回目の大作戦を110人が参加し、459袋を収めました。

2019,05,18	第30回 19春	1,514	2,034	1.34	8	136	○	ヨシ植栽会に35名	1週間前の雨予報が覆り、風が強かったものの晴天の下ですべての企画を滞りなく実施できた。また、昨秋押しよせた21号24号の二つの台風による高潮もたらしたペットボトルを中心にした膨大な化石燃料由来の漂着ごみを、庄内川河川事務所「維持管理」と力合わせて実施することで「一掃」することができた。第30回の節目の取組で、63haのヨシ原の中の膨大な漂着ごみを一掃しリセットできたことは大きな成果と言える。午後からの二つの干潟活動の参加者は過去最高となった。
2019,10,26	第31回 19秋	1,570	1,495	0.95	8	80	○	ヨシ見守る会24名	前日の雨と洪水もおさまり、藤前干潟と庄内川、新川河口域一帯の10会場で開催された。市民団体、地元自治会、企業、学生、行政、議員など151団体1,570名が参加し、45Lごみ袋、1,495袋收拾した。参加者は、昨年秋より359名増えましたが、ごみの量は昨年(2,772袋)の半分程と大きく減った。本取組はテレビ愛知と中日新聞の取材があり報道された。午後からは80名が参加して干潟観察会と、5月に行った「ヨシ植栽」を「見守る会」を24名の参加で行った。「賛助金会場カンパ」には¥9,989,-を寄せて頂いた。
	秋	36,200	44,587	1.23		719			